意義あるものと見なければならない。

聯合國は現在生起する新事態の軍事的意義のみに關心を有するに過ぎず。今回の事件を單に伊がファシスト政權下におけるよりも多少でも良い條件を獲得しやうとする工作とのみ見做すであらう。聯合國の條件は依然として無條件降服に變りがない。當てはまるべきものに見えたとの化物が突如として崩壞した爲世界の判斷は未だ一定したものにまではなつてゐないが、彼は既に樹の根に下ろされたのだといふのが紛ふべくもない一般輿論である。獨の支配者共はムツソリーニの辭職はその傳統障害の驚に必要となつた行政上の再建に過ぎぬと簡單に說明し去らんと懸命になつてゐるが、それは彼等の狼狽を暴露する以外の何物でもない。

又樞軸衞星諸國は首葉のみの大厦高樓が今やその土臺からぐらつき出したことを氣づき早々逃げ出さねば自分達もその廢墟の下敷にされてしまふ日が近づいて來たことを知らない者がない。伊國民が完全に悲運に捲込まれる途へ進むか否かそれは未だ伊國民自身が決定し得る狀態にある。

彼等には無條件降服が要求されてゐるが、しかもそれは彼等が自由諸國民の仲間入りをしてそこに名譽ある位置を占め得る保證と明瞭に結びついてゐるのだ。伊太利は歐洲に關し重大なるのだ。アフリカの沙漠を越えて大帝國の壓壓樓を打立てんとしたことは幾多の伊太利人の家庭を悲嘆の淵に投げ込んだ以外に征服した領土の一坪も殘らなくなつてしまつたのだ。當てペトラルカが讃歌伊太利とチユートンの野蠻との間に自然が築いて與れたアルプスの障壁に感謝したことは實なるかなといふべきである。

昭和一八、一、一〇(木)
情報局情報課

◎軍事獨裁力を强化

APロマ（イタリア・スイス國境）六日發

バドリオ元帥は五日イタリア全土に對する軍事獨裁力を强化したがこの目的は、イタリア國民の和平氣運を緩和するにあると見られる。ベルン並にロンドン方面ではイタリアが和平提議を目下考慮中であるとの噂が流布されてゐるがこれはイタリア閣議の開催やバチカン方面の外交的活動に起因してゐるものと思はれる。國內には成程不穩の兆候あるがバドリオ元帥は大体において國民を抑へてゐる模樣だ。カタニア市が陷落した現在シチリア島全部が聯合軍の掌中に歸するのはこゝ數日の問題であらうがこれがイタリア國民に如何に響くかは判らない。

◎北では平和、ローマでは戰爭と呼稱

同盟リスボン六日發

四日附デーリー・テレグラフ紙は次の通り報じてゐる

昨三日イタリアからは二つの聲が聞えた。その一つは北部イタリア工業地帶からのものでそれは平和を希求する聲であり、他の一つはバドリオの支配下にあるローマの獨逸ラジオでそれは國民に對して戰爭繼續を說得するものであつた。國王を中心に開かれてゐる御前會議は昨三日

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第二日に入つたが、スイスラジオによればバドリオ元帥始めデレヴエル提督其他の要人が出席してゐる。ローマの新聞は嚴重な檢閲下に戰爭繼續を呼稱する論説だけしか公表を許されてゐない。これに對し北イタリアではバドリオの威令はそれ程行はれず新聞も平和を公然と要求してゐる。ある新聞は「イタリアは國内再建に先立つてまづ戰爭から離脱しなければならぬ」と主張し、ミラノ、トリノ、ゼノア等では平和希求の示威運動が再發し國王の退位と攻戰鬪バドリオの辭職を要求してゐる。ゼノアでも造船所勞働者が集會を開きバドリオ反對の示威運動を行つた。ベルリン放送によればローマと北部工業地帶との間の電話連絡はすべて遮斷されて居り、ローマの新聞にはミラノ、トリノ等の報道は全然掲載されてゐないので或は北部では何か新たな事態が發生するのではないかと色々と臆測されてゐる。ローマでも鐵道が爆撃のために損傷を受け、そのため食糧不足を告げて居り、その他至るところで將來に對する不安が漲つてゐる。ウエリントン重爆は所謂「ブロツウバースター」四千ポンド爆彈並に數千の燒夷彈を積んでナポリに飛び新たな恐慌を呼んでゐる。昨夜もアルジエーの放送局は伊國民に對して爆擊再開を通告した。

◎伊和平交渉説

同盟ーリスボン六日發

ニユースクロニクル紙ワシントン特派員四日發ーバドリオから休戰の申入れがあり、しかも彼は聯合國側の仄かした條件は拒否したとの説は當地（ワシントン）では事實あつたことと見られてゐる。

即ちニユーヨーク・ヘラルド・トリビユーン紙ワシントン特派員の報ずるところによればバドリオは昨週聯合國に對し伊本土に軍を進めず、且それを作戰基地として使用せざる降服下に休戰を申入れたが容れられなかつたのであるとバドリオの方式にはドイツも乘氣で、若しその樣な場合にはイタリア駐屯の獨軍を撤收する用意ある旨申入れたといはれる。と申の申入れにバドリオが果して眞劍であつたかどうか、いづれにしても右申入れは米國政府としては絶對に容認し難きものでアイゼンハワーが即決的にこれを拒否したのである。

◎イタリア財政危機

ロイターーロンドン六日發　チユーリツヒ來電ーイタリア文相ギドー・ロツソの嚴重な指令にも拘らず、ローマ發行のポポロ・デイ・ローマ紙はバドリオ政府を攻擊して次の樣に述べてゐると言はれる。

バドリオ首相にして現在の政策を繼續するにおいては彼はイタリア國民の意志と決意に暴力と壓迫を加へるものだと言はざるを得ない。政府は未だ自由の境界を彷徨してゐるがこれは卑怯な態度だ。イタリア國民は今や完全な自由を享受するに充分な態度を持してゐる一方聯合國がイタリアに對して空の攻勢を再開するとの警告はイタリア國民に著しい影響を與へてをり、消息筋の言明に依れば、イタリアの政黨代表者は六日バドリオ首相に對して嘆願書を提出しイタリアの重大事態を指摘すると共に國民の總意に依り

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/